



頼総統、石破氏らと会談

台湾「日本と民主主義の傘支える」

【台北＝西見由章】台湾の頼清徳総統は13日、訪台している自民党の石破茂元幹事長ら超党派の

との認識を示した上で「国防力と経済の強靱性を強化し、日本などの民主主義のパートナーとともに『民主主義の傘』を支えていきたい」と述べた。総統府が発表した。

台湾総統府を訪れ、頼清徳総統（右）と会談する自民党の石破茂元幹事長（左）

13日（総統府提供・共同）

石破氏は台湾有事を念頭に「今日のウクライナが明日の東アジアとなるのを防ぐことが急務だ」と述べ、「民主主義陣営がともに抑止力を発揮してこそ、地域の平和と安定を守る事ができる」との考えを示した。

頼氏は、宮崎県で震度6弱を観測した8日の地震の被害に対して見舞いの意を表明。石破氏は謝

意を示した上で、台湾の災害対応の迅速さに「日本人は非常に驚き感服している」と述べた。

訪台したのは「日本の安全保障を考える議員の会」メンバー。共同団長を石破氏と、教育無償化を実現する会の前原誠司代表が務め、自民の中谷元・元防衛相や長島昭久元防衛副大臣らも参加した。14日まで滞在する。